

安全データシート

According to JIS Z 7253:2012

改訂日 2018-9-06

版 4.01

1. 化学品及び会社情報

製品名	過塩素酸
製品コード	166-00718,162-00715,160-00711,166-00713
CAS No	7601-90-3
化学式	HClO ₄
製造者	富士フィルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 Tel: 06-6203-3741 Fax: 06-6201-5964
供給者	富士フィルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号:06-6203-2029
緊急連絡電話番号	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 03-3270-8571
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用
社名変更のお知らせ	2018年4月1日より、和光純薬工業株式会社から富士フィルム和光純薬株式会社へ社名を変更いたしました。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物質又は混合物の分類

酸化性液体

金属腐食性物質

急性毒性(経口)

皮膚腐食性/刺激性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分2 呼吸器系

区分1

区分1

区分4

区分1

区分1

区分2

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

H271 - 火災又は爆発のおそれ: 強酸化性物質

H290 - 金属腐食のおそれ

H314 - 重篤な皮膚やけど・眼の損傷を起こす

H318 - 重篤な眼の損傷をおこす

H302 - 飲み込むと有害

H371 - 以下の器官を損傷するおそれがある: 呼吸器系

危険

注意書き(安全対策)

- ・取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- ・この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。

- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・熱、火花、裸火、熱い面から離して保管すること-禁煙。
- ・衣服/可燃物を避けて保存/保管する。
- ・可燃物との混合を避ける予防措置をすること。
- ・防火服、もしくは難火服、防災服もしくは難燃服を着用すること。
- ・ほかの容器に移し替えないこと。

注意書き-(応急措置)

- ・眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
- ・ただちに医師に連絡すること。
- ・再使用前に汚染された衣服を洗う。
- ・衣服に付着した場合、汚染された衣服を洗浄し、衣服を脱ぐ前にたくさんの水で皮膚を洗う。
- ・水やシャワーで皮膚を洗う。
- ・吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させる。
- ・飲み込んだ後に、気分が悪い場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡してください。
- ・口をすすぐ。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・大規模な火災で、保管量が多い場合:火災現場から避難してください。消火活動は爆発のおそれがあるので、離れて行ってください。
- ・火災の場合:消火には、二酸化炭素、粉末消火剤、フォームを使用する。
- ・材料損傷を避けるために、漏出物を吸着させること。

注意書き-(保管)

- ・施錠して保管。
- ・耐腐食性/耐腐食性内貼りのある容器に保管すること。

注意書き-(廃棄)

- ・内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

その他

ほかの危険有害性 情報なし

3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物 混合物

化学式 HClO₄

化学名	重量パーセント	分子量	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS番号
過塩素酸	60.0 - 62.0	100.46	(1)-221	1-221	7601-90-3
水	38.0 - 40.0	18.02	N/A	N/A	7732-18-5

不純物または安定化添加剤 非該当

4. 応急措置**吸入した場合**

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤

現場状況と周囲の環境に適した消火方法を行うこと。

使ってはならない消火剤

利用可能な情報はない

特有の消火方法

利用可能な情報はない

火災時の特有危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

回収、中和

利用可能な情報はない

二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

火気厳禁。可燃物及び還元剤との接触を避ける。アルカリ性物質との接触を避ける。金属との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱注意事項

皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。

保管

安全な保管条件

保管条件

直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

安全な容器包装材料

ガラス

混触禁止物質

有機物、可燃物、強塩基

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

ばく露限界

この供給された製品は地域の特定期間機関によって発行された職業ばく露限界値のある有

害危険物を含有していない。

保護具

呼吸器用保護具	酸性ガス用防毒マスク
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣

適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

形状

色	無色
濁度	澄明
性状	液体

臭い

データなし

pH

強酸性

融点・凝固点

-17 °C

沸点, 初留点及び沸騰範囲

203 °C (72.4%) (共沸)

引火点

データなし

蒸発速度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

燃焼又は爆発範囲

上限:

データなし

下限:

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

比重・密度

1.54 g/mL

溶解性

水: 溶けやすい。

n-オクタン-1-オール水分配係数

データなし

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

粘度(粘性率)

データなし

動粘度

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

安定性

推奨保管条件下で安定。

反応性

データなし

危険有害反応可能性

通常の処理ではなし。

避けるべき条件

高温と直射日光

混触危険物質

有機物、可燃物、強塩基

危険有害な分解生成物

塩化水素(HCl) ガス, ハロゲン化物

11. 有害性情報

急性毒性

化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
過塩素酸	1100 mg/kg (Rat)	N/A	N/A

化学名	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠

過塩素酸	RTECS(Access on Jul 2007)のデータ ラット LD50 1100mg/kgより区分4とした。	データなし	液体である。
------	---	-------	--------

化学名	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
過塩素酸	データなし	データなし	データなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
過塩素酸	HSDB(2003), ISCS(J)(2000)の記載ヒトの皮膚腐食性データ(Corrosive, Severe)により区分1に分類。その程度は不明のため区分1A-1Cとした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
過塩素酸	HSDB(2003), ISCS(J)(2000)の記載、ヒト眼に対する影響、(腐食性)のデータにより区分1に分類した。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

化学名	呼吸器および皮膚感受性分類根拠
過塩素酸	呼吸器感受性: データなし 皮膚感受性: データなし

生殖細胞変異原性

化学名	変異原性分類根拠
過塩素酸	データなし

発がん性

化学名	発がん性分類根拠
過塩素酸	データなし

化学名	NTP	IARC	米国産業衛生専門家会議(ACGIH)	日本産業衛生学会
過塩素酸 7601-90-3		Group 1		

生殖毒性

化学名	生殖毒性分類根拠
過塩素酸	データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
過塩素酸	HSDB(2003)の記載「吸入により強い気道刺激、肺への影響がある」及びICSC(J)(2000)の記載「短期暴露の影響: 腐食性。この物質の蒸気は、眼、皮膚、気道に対して著しい腐食性を示す。蒸気またはミストを吸入すると、肺水腫を起こすことがある。」より区分2(呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
過塩素酸	データなし

吸引性呼吸器有害性

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
過塩素酸	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 利用可能な情報はなし

その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
過塩素酸	データなし	データなし

残留性・分解性 利用可能な情報はなし
 生体蓄積性 利用可能な情報はなし
 土壌中の移動性 利用可能な情報はなし

オゾン層への有害性 利用可能な情報はない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号	UN1873
品名	過塩素酸
国連分類	5.1
副次危険性	8
容器等級	I
海洋汚染物質	非該当

IMDG(海上)

国連番号	UN1873
品名	過塩素酸
国連分類	5.1
副次危険性	8
容器等級	I
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78やIBCコードに則ったバルクの輸送	利用可能な情報はない

IATA(航空)

国連番号	UN1873
品名	過塩素酸
国連分類	5.1
副次危険性	8
容器等級	I
環境有害物質	非該当

15. 適用法令

国際インベントリー

EINECS/ELINCS	収載
TSCA	収載

国内法規

消防法	危険物第六類 過塩素酸
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	危険物・酸化性の物(施行令別表第1 第3号)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	酸化性物質類・酸化性物質(危規則第3 条危険物告示別表第1)
航空法	酸化性物質類・酸化性物質(施行規則第1 9 4 条危険物告示別表第1)
PRTR法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等 NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>
IATA危険物規則書
RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances

中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報
有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック
化学大辞典 共立出版
等

免責事項

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取扱いには十分ご注意ください。

GHS分類はJIS Z7252(2014)に準拠している。*JIS: 日本工業規格

製品についてのご案内

新社名へ切替を行う間、旧社名のラベル表示がある製品がお手元に届く場合がございます。

以上